

2021 年 10 月

食料安全保障月報 (第 4 号)



令和 3 年 10 月 29 日

農林水産省

食料安全保障月報について

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

本月報は、2021年6月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報（生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等）について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

2021 年 10 月食料安全保障月報（第 4 号）

目 次

概要編

I	2021 年 10 月の主な動き	1
II	2021 年 10 月の穀物等の国際価格の動向	3
III	2021/22 年度の穀物需給（予測）のポイント	3
IV	2021/22 年度の油糧種子需給（予測）のポイント	3
V	今月の注目情報 南米の生産・輸出動向	4

（資料）

1	穀物等の国際価格の動向	7
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	8
3	穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、品目別）	9
4	加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の状況	11
5	FAO 食料価格指数の推移	15
6	食品小売価格の動向	16

品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
	＜米国＞	生産量は前年度に比べ 1 割減
	＜カナダ＞	耕作放棄面積の増加と単収の低下で減産見通し
	＜豪州＞	生産量の増加で輸出量が増加、アジア市場向けが堅調
	＜EU＞	EU27 の生産量は前月に比べ上方修正
	＜中国＞	天候に恵まれ生産量は史上最高の見通し
	＜ロシア＞	生産量は前年度を下回るも品質は良好
2	とうもろこし	8
	＜米国＞	収穫面積増、単収上方修正で生産量史上第 2 位、輸出減の見通し
	＜ブラジル＞	収穫面積増、単収増で生産量史上最高の見通し
	＜アルゼンチン＞	生産量史上最高も輸出税継続
	＜中国＞	収穫面積増、単収増で生産量史上最高、消費量も史上最高の見通し
3	コメ	13
	＜米国＞	中米における米国産コメのシェアが低下
	＜インド＞	収穫面積と単収の上方修正により生産量は史上最高
	＜中国＞	インドからの輸入量が前月予測から拡大
	＜タイ＞	タイ商務省の見通しは 2020/21 年度に 6 百万トンを輸出
	＜ベトナム＞	船積み契約や政府買入等によりコメ価格が上昇

Ⅱ 油糧種子	
大豆・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
＜米国＞ 収穫面積増、単収上方修正で生産量史上最高、輸出減の見通し	
＜ブラジル＞ 収穫面積増で生産量史上最高の見通し	
＜アルゼンチン＞ 収穫面積増で増産見通しも輸出税継続	
＜中国＞ 収穫面積減で減産見通し、輸入量は約1億トン	
＜カナダ＞ 西部での高温乾燥の影響で減産見通し	

特別編

我が国の農産物輸入における海運事情（内航編）

【利用上の注意】

表紙写真：（株）昭和産業 鹿島工場 穀物輸送船（パナマックス級）

出典：昭和産業ホームページ

(https://www.showa-sangyo.co.jp/saiyo/about/factory_tour.html)

(概要編)

I 2021 年 10 月の主な動き

主要穀物等の需給・相場等について

主要穀物等の 2021/22 年度の作況については、北半球はほぼ確定しつつあるが、これから収穫・作付けが行われる南半球は今後も変動する可能性。

品目別にみると、小麦については、10 月の米国農務省 (USDA) の需給報告では、生産量は史上最高となるものの、主要輸出国である米国やカナダの生産量が下方修正されたこと等から、国際相場は高い水準で推移しており今後も注視が必要。

一方、大豆・とうもろこしについては、生産量が消費量を上回ると予想され、相場も史上最高水準にまで迫った 5 月頃と比較すれば一段落した感があるものの、期末在庫は依然としてタイトな状況であり、南半球の状況を中心に引き続き注視していく必要。

FAO (国連食糧農業機関) が公表している食料価格指数については、本年 5 月まで 12 カ月連続で上昇して以降、2 カ月連続で下落していたが、8 月には上昇に転じ、最新値 (9 月) においても、穀物及び植物油の上昇を受け連続して上昇。

また、海上運賃も引き続き高い水準を維持。

早期注意段階の継続について

現状において、我が国の食料の安定供給に懸念は生じていないものの、上記の状況を踏まえ、2021 年 7 月から適用を開始した、緊急事態食料安全保障指針に基づく「早期注意段階」については、10 月も引き続き適用。

【参考】早期注意段階について (農林水産省 HP)

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/soukichuui.html>



1 中国経済と穀物輸入、需要動向

写真:収穫を待つ黒龍江省のとうもろこし
(10月6日撮影)

米国農務省(USDA)の10月需給見通しによれば、7月の河南省の洪水などの影響が軽微であったこともあり、2021/22年度の収穫中のとうもろこしが2億7,300万トン、収穫が終了した小麦が1億3,690万トンとそれぞれ史上最高となる等、中国の穀物生産は豊作の見通しとなっている。

一方、アフリカ豚熱(ASF)からの豚肉生産の回復等から、穀物需要は旺盛となっており、大半を輸入に依存してきた大豆は2021/22年度の輸入量が1億トンを超える見通しである。また、とうもろこしの輸入量が2,600万トン、小麦の輸入量が1,000万トン超と、ここ2年間の輸入量の見通しは大幅に増加し、特に米国産の輸入が増加している。

なお、最近、中国内の大手不動産関連企業が経営破綻した場合の中国経済への影響や、カナダで拘束されていた大手通信機器企業の幹部職員の釈放によるカナダ産菜種をはじめとする穀物輸入への影響が懸念されている。最近では東北地区等で電力不足による停電が相次いでおり、USDAは大豆の搾油工場の操業に影響するとみている。

大豆に加え、近年では、小麦やとうもろこしについても中国の輸入量が我が国の輸入量を大きく上回っており、中国の穀物需要・輸入動向が、国際穀物需給や価格を通じて、我が国の食料供給に与える影響も高まっている。



2 収穫期を迎えた米国の状況

2020/21年度のとうもろこし、大豆はおおむね順調に収穫期を迎え、10月17日現在、とうもろこしの収穫進捗率は52%、大豆の収穫進捗率は60%と、過去5年平均を上回るペースとなっている。USDAの生産見通しでは、とうもろこしは3億8,150万トン(史上第2位)、大豆は1億2,110万トン(史上最高)といずれも前年度を6%上回る見込み。

一方、小麦は収穫が終了し、夏季の干ばつの影響で春小麦の収穫が出来なかった圃場が増え、収穫面積が減少したことから、生産量は、冬春作合計で4,480万トンと前年度を10%下回る見込みである。なお、現在作付けが終盤を迎えた2022/23年度の冬小麦は、一部で乾燥の影響もあるが、発芽期を迎えている。

3 ロシアの収穫状況と輸出動向

USDAの10月見通しによれば、小麦は、越冬期の冬枯れの影響等で減産となり、前年度比15%減の7,250万トンが見込まれている。一方、とうもろこしは前年度比8%増の1,500万トンが見込まれている。

なお、9月30日には、農業省と穀物輸出業界関係者との会合で、ルト農業次官が、現行の可変輸出関税に加え、2022年2月15日から6月まで輸出枠の導入を検討したことについて明らかにした。一方、10月12日には、パトルシェフ農相が、2021/22年度産穀物の収穫が進展し、国内需要と輸出を満たすことができると発言した。

Ⅱ 2021 年 10 月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、9月末、260ドル/トン台半ばで推移。10月に入り、USDAの在庫報告での予想を下回る米国の在庫量、好調な輸出需要から270ドル/トン台後半に値を上げたものの、割高な米国産小麦価格、米国プレーンズの降雨による冬小麦の生育状況改善等から、260ドル/トン台半ばに値を下げた。その後、USDAの10月需給報告で世界の期末在庫量が5年ぶりの低水準になったこと、中国の降雨過多による冬小麦の播種遅延等から値を上げ、10月下旬現在、270ドル/トン台半ばで推移。

とうもろこしは、9月末、210ドル/トン台前半で推移。10月に入り、米国の収穫作業の順調な進展、USDAの10月需給報告で米国の生産量・期末在庫量の上方修正が市場予想を上回ったこと等から10月中旬に200ドル/トン台前半まで値を下げた。その後、堅調な輸出実績や原油高を背景にエタノール生産量の増加等から値を戻し、10月下旬現在、210ドル/トン前半で推移。

コメは、9月末、410ドル/トン台前半で推移。10月に入りバーツ高や中国及びアフリカからの新規需要により、10月上旬から中旬にかけて値を上げた。その後、雨季米の収穫終了前の様子見の状況で価格に大きな変動はなく、10月中旬現在、410ドル/トン台半ばで推移。

大豆は、9月末、460ドル/トン前後で推移。10月に入り、米国の収穫作業の順調な進展、USDAの10月需給報告で米国の生産量・期末在庫量の上方修正が市場予想を上回ったこと等から10月中旬に440ドル/トン前後まで値を下げた。その後、ブラジルの順調な作付進捗はあるものの、堅調な輸出実績や植物油価格の上昇等から値を戻し、10月下旬現在、450ドル/トン台後半で推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場（期近物）、米はタイ国家貿易委員会価格

Ⅲ 2021/22 年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前月から 460 万トン下方修正され 27.8 億トン。消費量は、前月から 600 万トン下方修正され 27.9 億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

また、期末在庫率は前年度を下回り 28.3%となる見込み（資料 2 参照）。

生産量は、前月予測から、小麦で下方修正、とうもろこし、コメで上方修正され、穀物全体で下方修正され 27.8 億トンの見込み。

消費量は、前月予測から、小麦、とうもろこしで下方修正、コメで上方修正され、穀物全体で下方修正され 27.9 億トンの見込み。

貿易量は、前月予測から、小麦、とうもろこし、コメで上方修正され、5.0 億トンの見込み。

期末在庫量は、7.9 億トンと前月予測から下方修正、期末在庫率は前月から下方修正された。

(注：数値は 10 月の USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による)

Ⅳ 2021/22 年度の油糧種子需給(予測)のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り 6.3 億トン。消費量は前年度を上回り 6.2 億トンとなり、生産量が消費量を上回る見込み。

なお、期末在庫率は前年度を上回り、18.7%となる見込み。

(注：数値は 10 月の USDA 「Oilseeds : World Markets and Trade」による)

V 今月の注目情報:南米の生産・輸出動向

10月の降雨を受け、ブラジルで大豆、夏とうもろこし、アルゼンチンでとうもろこしの作付けが進展した。ブラジルは前年度、大豆は豊作であったが、干ばつや霜害で冬とうもろこしが減産となった。一方、前年度のアルゼンチンは大豆、とうもろこしも乾燥被害はあったものの、目立った減産はなかった。しかし、従来からの輸出税に加え、降雨不足によるパラナ川の水位低下から輸出に支障が発生した。最近の両国の状況をまとめた。

1 ブラジルの生産・輸出動向

(1) 生産動向

ブラジルの 2021/22 年度の大豆や夏とうもろこしの作付けが開始された。10 月の降雨を受け、10 月 15 日時点で、主産地のマット・グロッソ州では、大豆の作付けは 45%進展しており、過去 5 年平均より 20 ポイント前後ペースが早くなっている。南部のリオ・グランデ・ド・スール州では夏とうもろこしの作付けが 10 月 14 日現在で 65%進展している。

ブラジル食料供給公社(CONAB)が 10 月 7 日に公表した穀物レポートによれば、2021/22 年度の穀物・油糧種子の生産見通しは、価格高騰により農家の作付け意欲が増加していることから作付面積が増加し、生産量も 2 億 8,860 万トンと前年度より 14%増加する見通し。

大豆ととうもろこしで穀物・油糧種子の生産量の 9 割を占めている。作付けが開始された大豆については、作付面積の増加により、前年度の史上最高を更新する 1 億 4,080 万トンが見込まれており、世界一の大豆生産国となっている。また、とうもろこしのうち生産量の 2～3 割を占める、現在作付けが行われている夏とうもろこしについては作付面積の増加により、生産量は前年度比 15%増の 2,830 万トンが見込まれている。大豆の収穫後に作付けされる冬とうもろこしは、干ばつと霜害の影響を受けた前年度から 41%増の 8,800 万トンと見込まれている。夏冬合計で 1 億 1,630 万トンと前年度から大幅に増加 (34%増) し、現時点では、史上最高の 2019/20 年度生産量を更新する見通し。

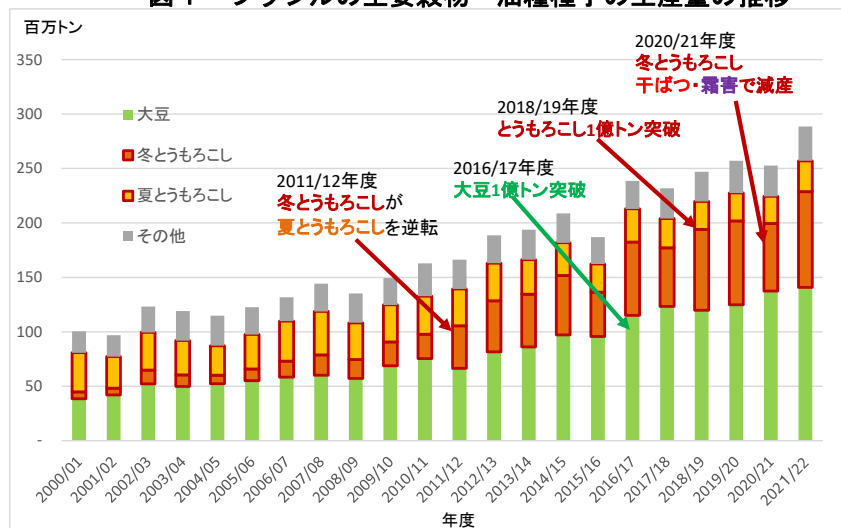
(2) 輸出動向

USDA の 10 月見通しによれば、2021/22 年度の輸出量は、大豆については、豊作を背景に前年度 (8,170 万トン) を大きく上回る 9,300 万トン、とうもろこしも、干ばつで減産となった前年度 (2,000 万トン) の倍以上の 4,300 万トンが見込まれている。

2021 年 1～9 月期の大豆の輸出量は 7,750 万トンで、前年同期より 2%減少しているが、そのうち 5,350 万トンが中国向けで、輸入量全体の 7 割近くを占めている。

2021 年 1～9 月期のとうもろこしの輸出量は 1,280 万トンで、前年同期より 35%減少しており、主要輸出先はイラン、スペイン、エジプトなどとなっている。

図 1 ブラジルの主要穀物・油糧種子の生産量の推移



資料: CONAB「穀物レポート」(2021. 10)を農林水産省で加工

2 アルゼンチンの生産・輸出動向

(1) 生産動向

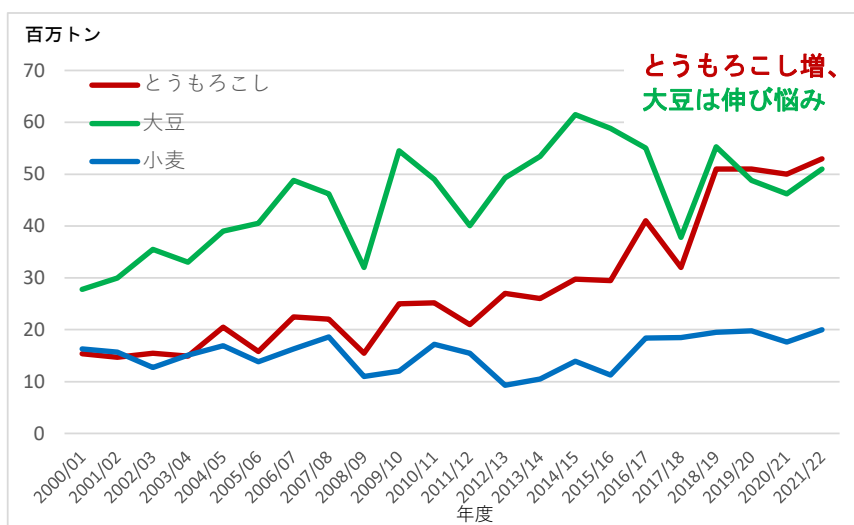
アルゼンチンでは、10月に入り、2021/22 年度産の小麦の収穫が開始された。また、乾燥が続いていた産地でも、9月下旬から10月中旬にかけ、降雨があり、とうもろこしの作付けが進展した。11月には、大豆の作付けが本格的に開始される見通しである。ブエノスアイレス穀物取引所の10月21日週報

によれば、小麦の作付予定面積は 660 万

ヘクタール（前年度 650 万ヘクタール）で、とうもろこしは 710 万ヘクタール（同 660 万ヘクタール）であり、作付進捗率は 26%となっている。USDA によれば、とうもろこしの作付面積が大幅に増加した要因は、輸出税率の高い大豆と比べて収益性が良いため農家の作付け意欲が高いことが挙げられている。

また、生産量については、USDA の 10 月見通しによれば、小麦、とうもろこし、大豆は、それぞれ 2,000 万トン（対前年度比 13%増）、5,300 万トン（同 6%増）、5,100 万トン（同 10%増）と、ともに増産が見込まれている。ここ数年の傾向として、輸出税率の高い大豆より、とうもろこしの生産量が伸びているとみられる。

図2 アルゼンチンのとうもろこし、大豆、小麦の生産量の推移



資料：USDA「PS&D」（2021.10）を農林水産省で加工

(2) 輸出動向

USDA の 10 月見通しによれば、2021/22 年度の小麦の輸出量は 1,350 万トン、とうもろこしは 3,800 万トン、大豆は 640 万トンとすべて前年度より増加の見込みである。

しかしながら、アルゼンチンは農産物の輸出について輸出税（課徴金）を課しており、最大 33%が附加される大豆を始め、大豆かす、大豆油は 31%、とうもろこし、小麦は 12%が課税されている。

さらに、上流のブラジル南部での降雨不足により、パラナ川の水位が低下し、下流の輸出港のロサリオ港からの積込量が制限されていることから、一部の穀物を大西洋に面したバイアブランカ港までトラックで運送し、二港積みする等、輸出コストが増大した。

写真 アルゼンチン サンタフェ州の
とうもろこし作付け（9月19日撮影）



3 国際貿易への影響

近年、中国の大豆をはじめとする穀物需要増に対応する形で、南米の穀物生産・輸出は伸びてきた。

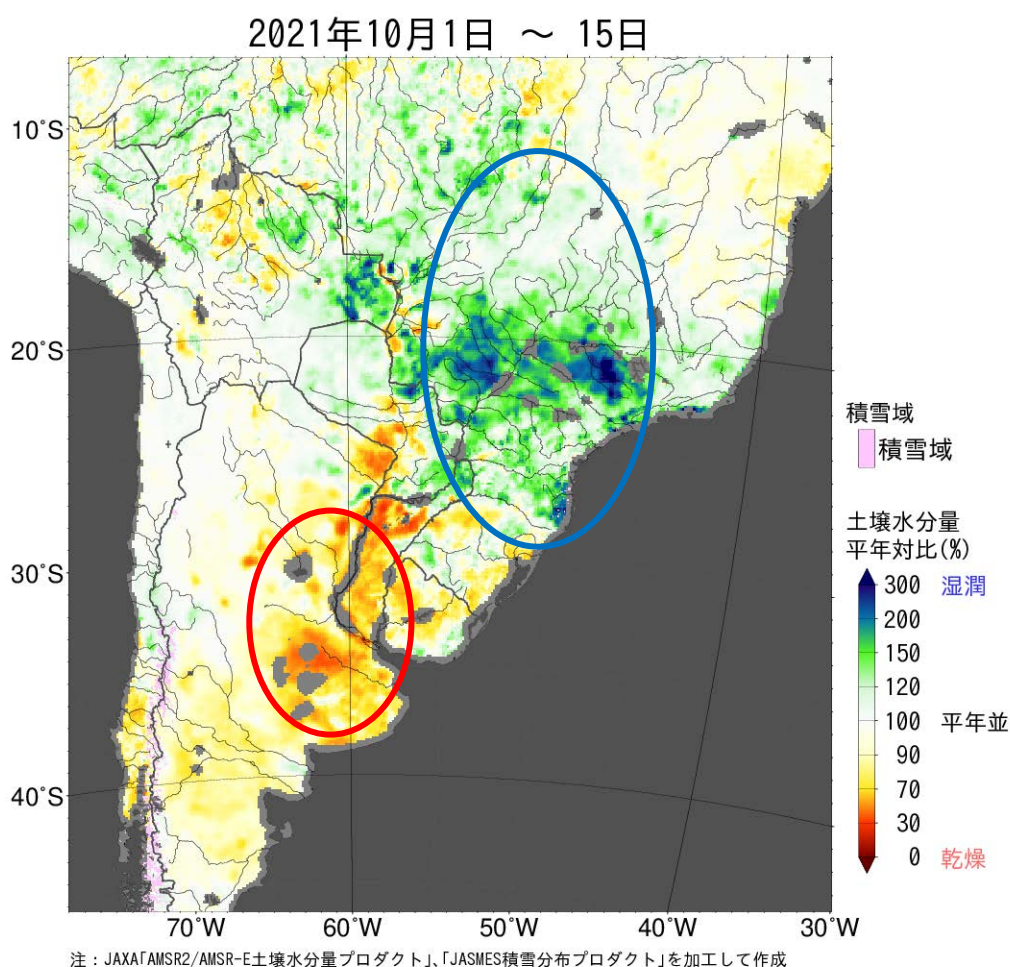
一方で、前年後半からの乾燥懸念、特に今年のブラジル南部からアルゼンチン北部にかけての降雨不足とブラジルでの霜害により、ブラジルでは、2020/21 年度の冬とうもろこしに加え、サトウキビやコーヒーの生産に影響が及び、アルゼンチンでのパラナ川の水位低下による穀物の積み出し制限などにより、農産物価格本体と輸送コストの両面で南米産穀物のコストを引き上げる要因となった。

10 月現在、とうもろこしや大豆のシカゴ相場は、収穫期を迎えた米国の増産（とうもろこし：史上第 2 位、大豆：史上最高）見通しもあり、価格高騰した 5 月と比べて落ち着いた動きを見せているが、依然として前年と比べると高水準である。また、パラナ川の水位低下も 9 月の降雨により緩和された。しかし、今後、生育期を迎える南米の天候次第では穀物相場が再び上昇する可能性をはらんでいることから、引き続き注視が必要である。

図 3 10 月前半の南米の土壌水分量平年比

ブラジルの南部、中西部の土壌水分量は平年を上回っている。青丸

アルゼンチンの中央部の土壌水分量は平年を下回っている。赤丸

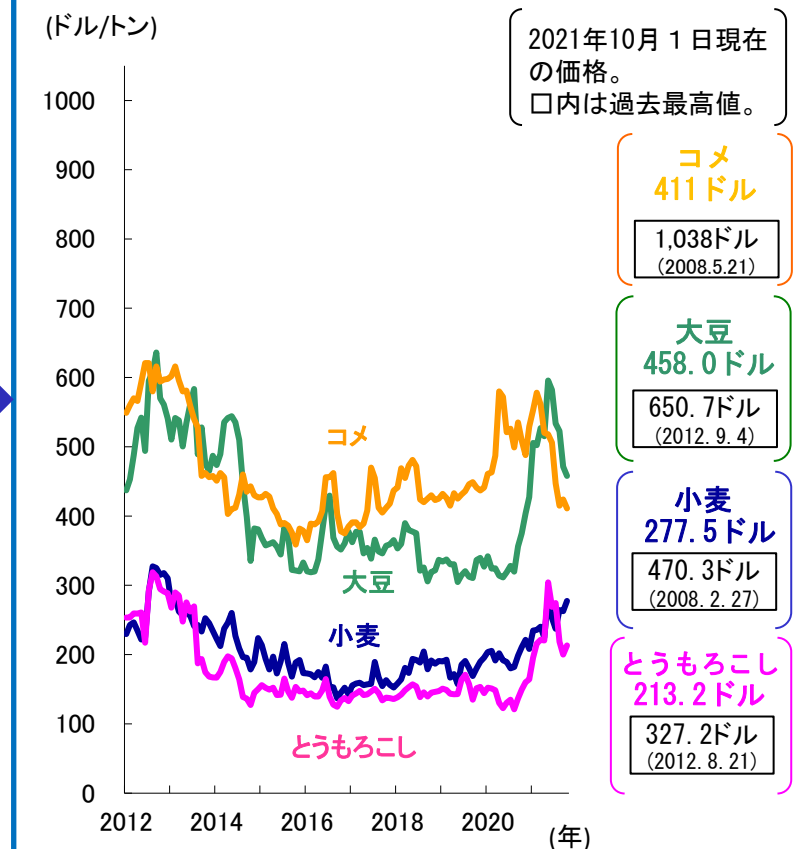
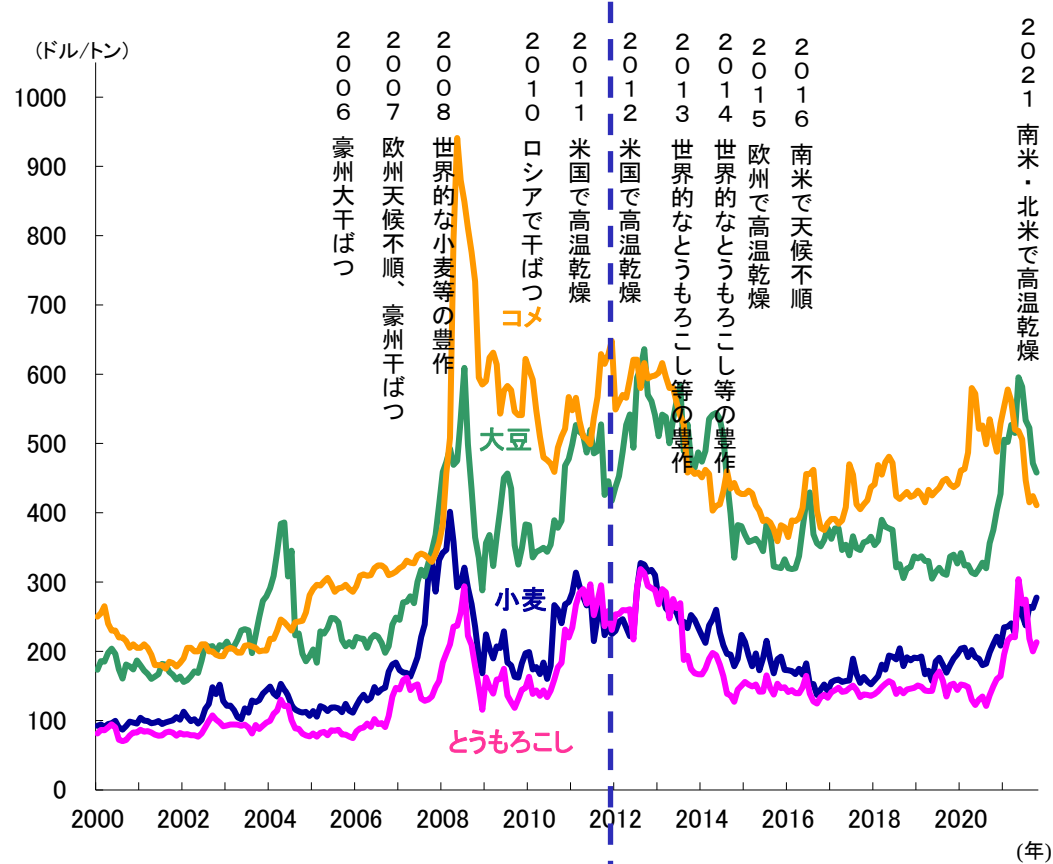


資料 1 穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

○とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2017年以降ほぼ横ばいで推移も、2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇。コメは、2013年以降低下も2020年ベトナムの輸出枠設定や2021年初頭のコンテナ不足等で一時的に上昇。2021年2月半ばから海外需要低迷で低下。

○なお、穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要により、2008年以前を上回る水準で推移している。

□ 穀物等の国際価格の動向



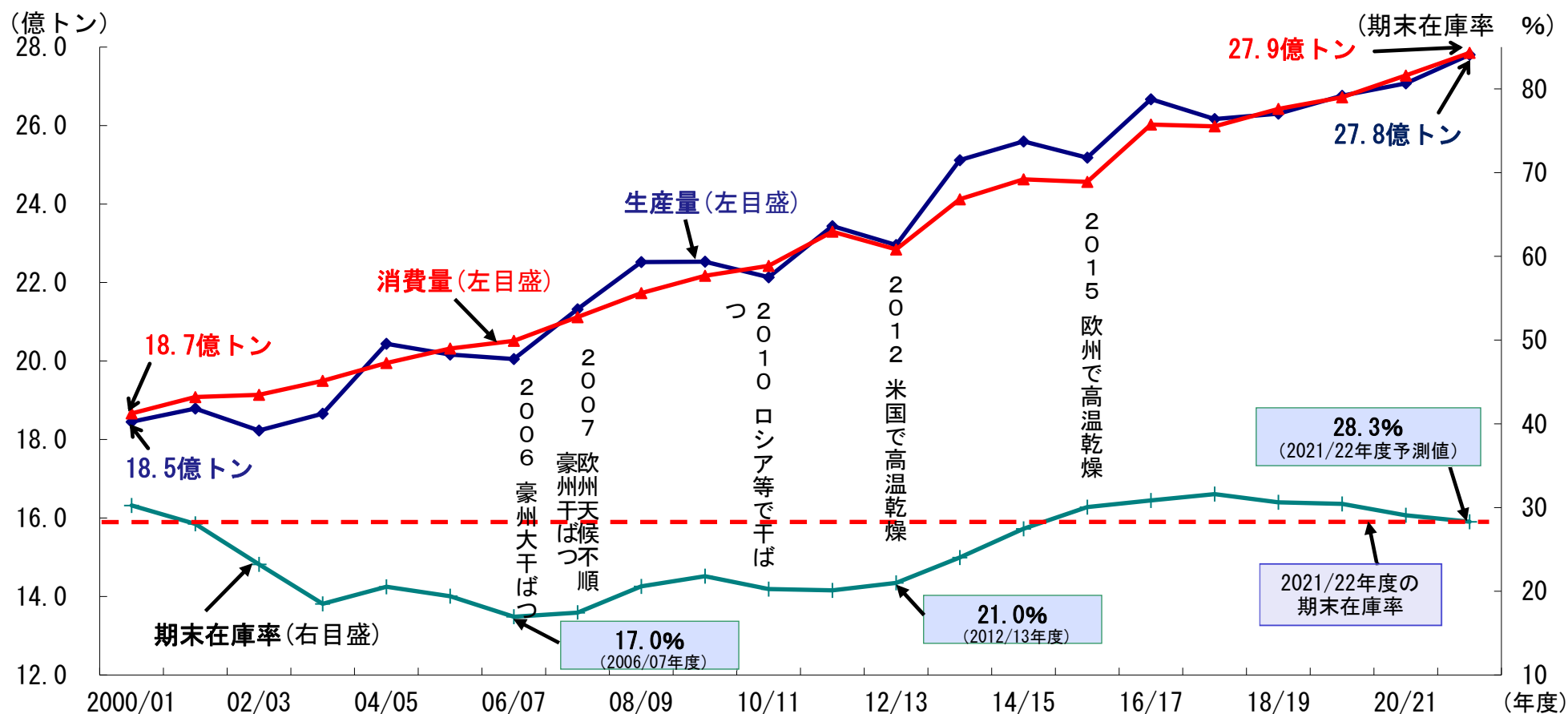
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格（セツルメント）である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。なお、コメの最新値は2021年9月29日の価格。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2021/22年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2021/22年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回り、前年度より低下し、28.3%。直近の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

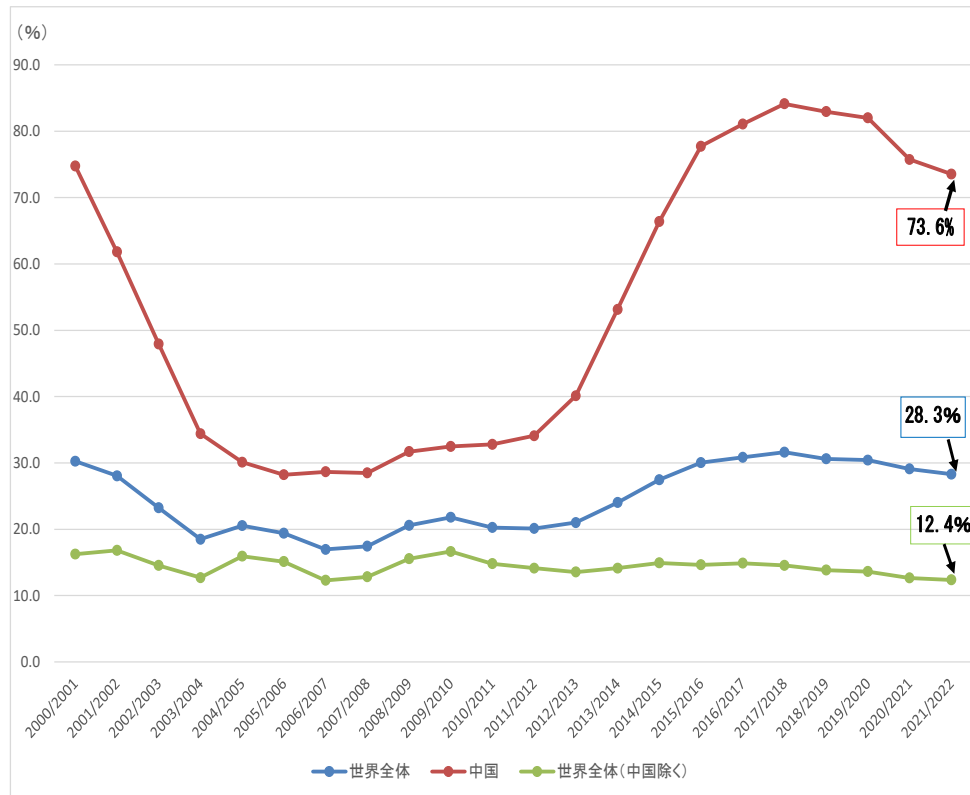
□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



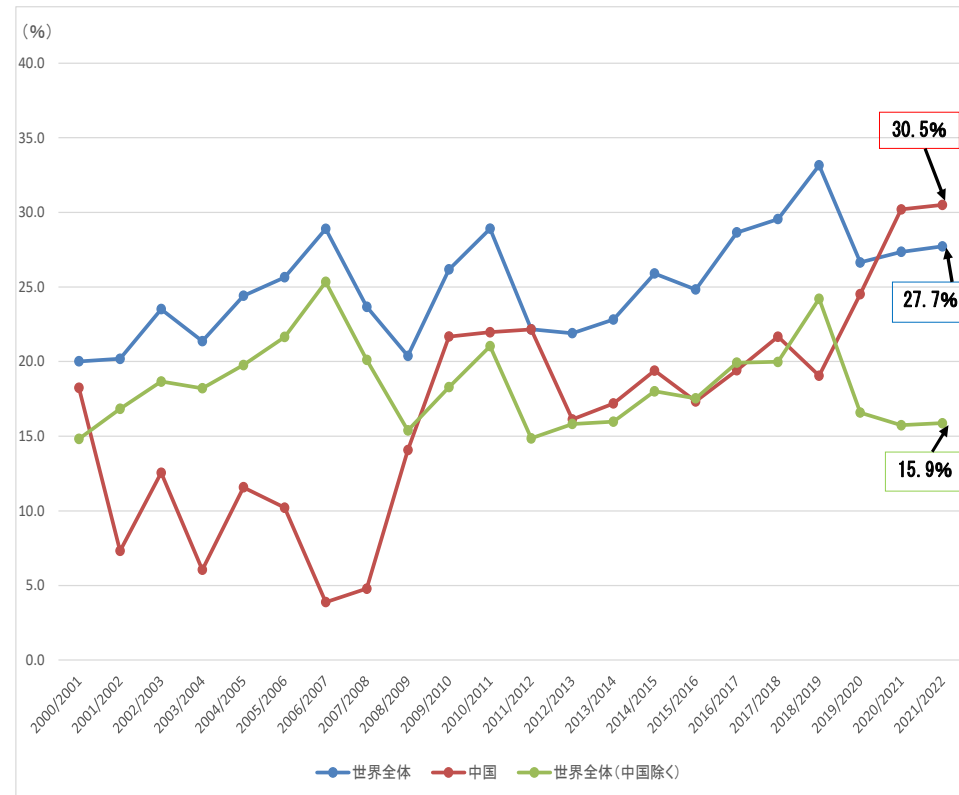
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(October 2021)、「PS&D」
(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(October 12, 2021)

注: 1) 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。

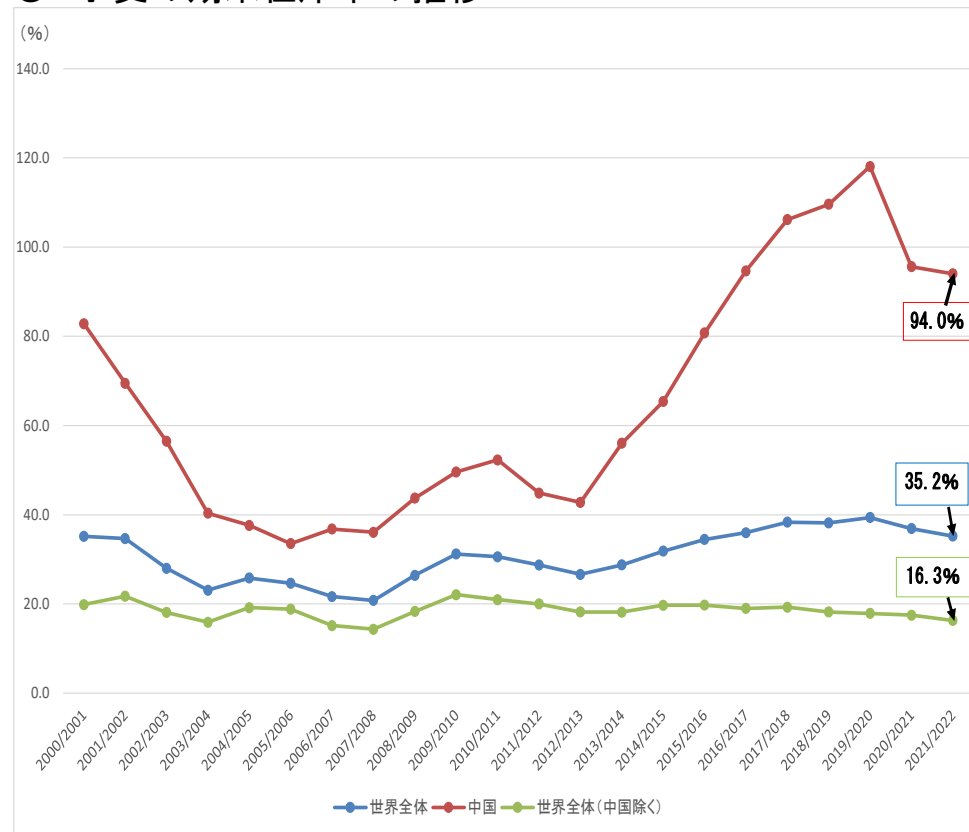
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / 消費量 × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

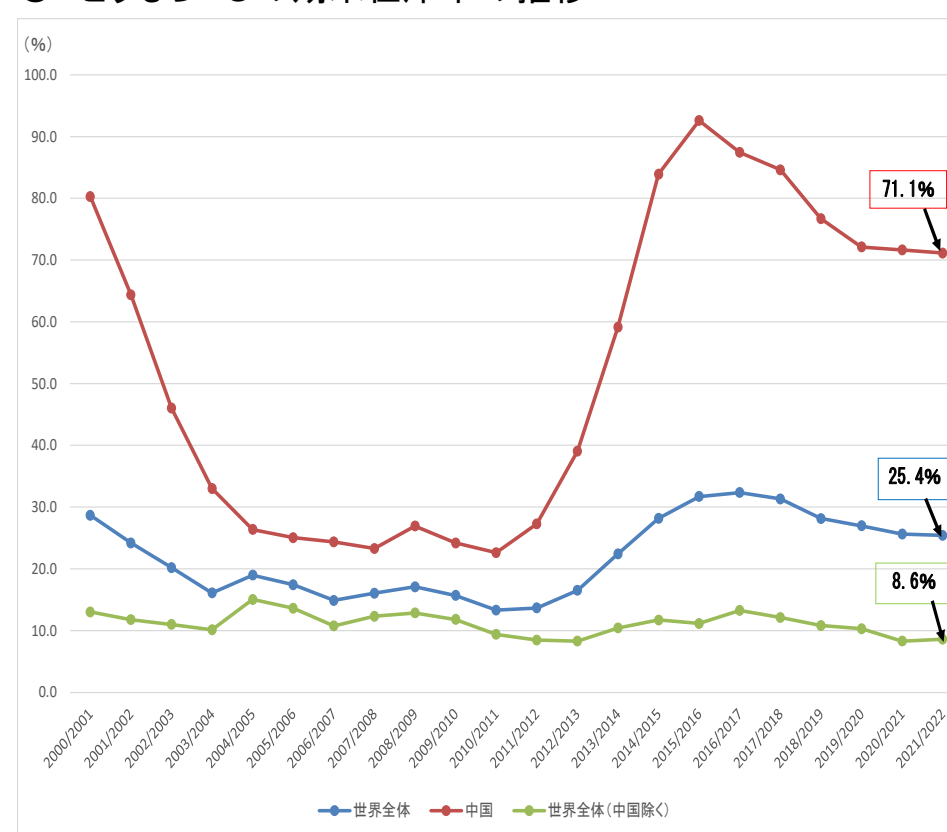
4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(October 12, 2021)

注: 1)小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

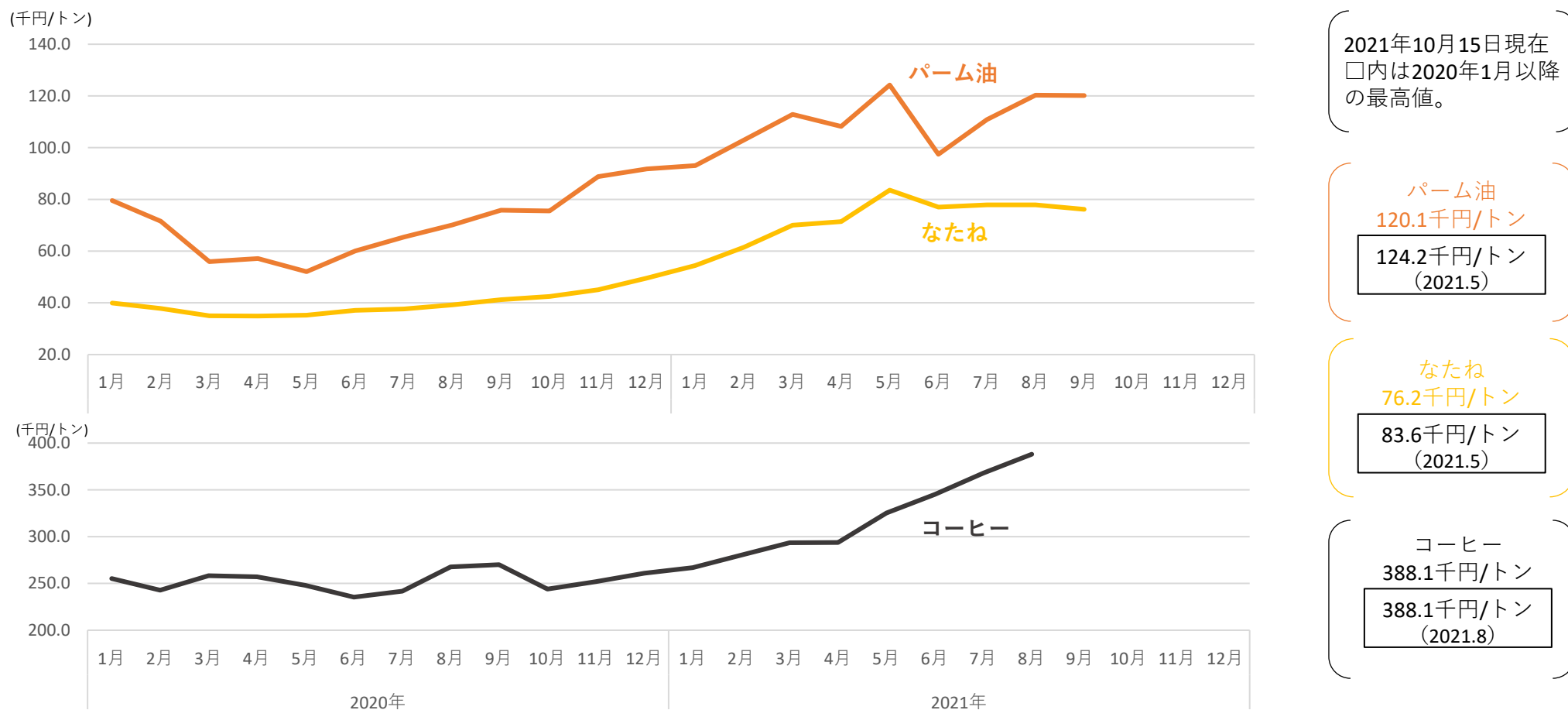
2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100

3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

資料４－１ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

- なたね、パーム油について、需要の面では世界的な人口増加や中国等における所得水準の向上による食用油需要の拡大、エネルギー向け需要の増加などが価格に影響を及ぼしている。
- 供給面では、なたねについて、主産地であるカナダにおいて、高温、乾燥により、減産見通しとなっている。パーム油については、新型コロナウイルスの感染拡大による労働力不足により、主産地であるマレーシア等において、収穫作業が進まず、減産傾向となっている。
- コーヒーについて、世界最大の生産国であるブラジルの天候不順や世界的な物流の混乱等供給不足への懸念が強まったこと、需要面ではワクチン接種による経済活動の回復からコーヒー消費量が増加したことが価格に影響を及ぼしている。

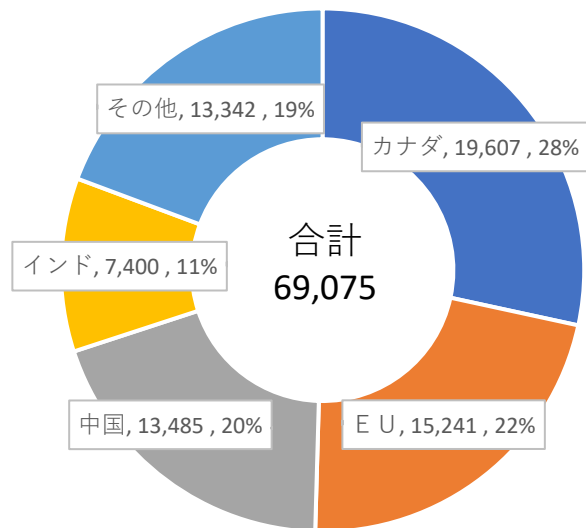


※ なたねの国際価格についてはカナダウィニペグ菜種市場の先物価格（期近物）を、パーム油の国際価格についてはマレーシアパーム油市場の先物価格（期近物）を、コーヒーの国際価格については国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均を用い、為替レートから円に換算して算出。

資料４－２ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

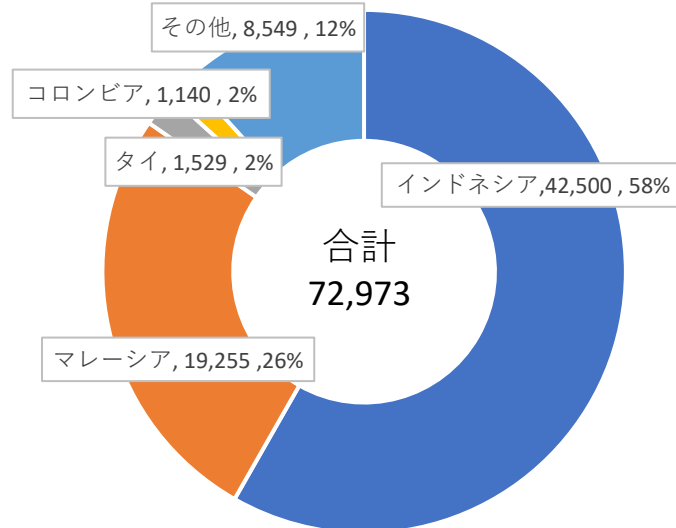
○主要生産国の生産状況

なたね生産量（2019/20）
（単位：千トン）



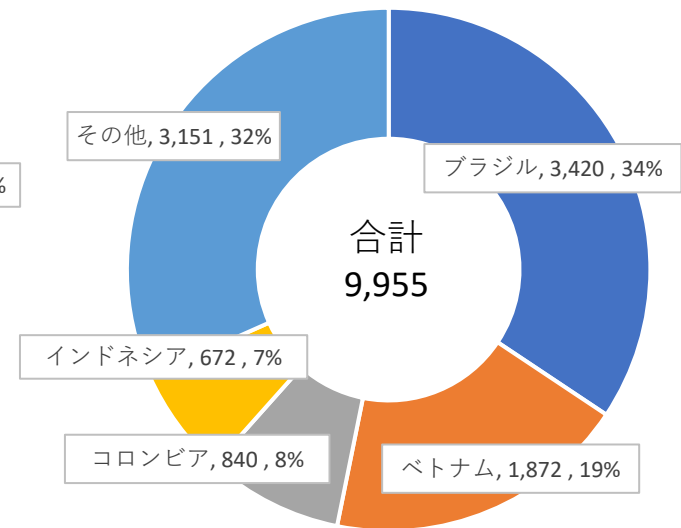
※米国農務省穀物等需給報告

パーム油生産量（2019/20）
（単位：千トン）



※米国農務省穀物等需給報告

コーヒー生産量（2019）
（単位：千トン）



※国際コーヒー機関（ICO）統計資料

○我が国の主な輸入先の状況（単位：千トン（2020年））

なたね	輸入量	割合
カナダ	2,194	97.4%
オーストラリア	59	2.6%
その他	0	0.0%
合計	2,252	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：1205）

パーム油	輸入量	割合
マレーシア	447	58.8%
インドネシア	313	41.2%
その他	0	0.0%
合計	761	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：1511）

コーヒー	輸入量	割合
ブラジル	117	29.4%
ベトナム	101	25.2%
コロンビア	61	15.2%
その他	120	30.2%
合計	399	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：0901.11-22）

資料４－３ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移①

①なたね

単位（千円/トン）

	2020年												2021年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
なたね	39.9	37.8	35.0	34.9	35.2	37.1	37.6	39.2	41.2	42.5	45.0	49.5	54.4	61.5	70.0	71.4	83.6	77.0	77.8	77.9	76.2			
前月比	103.9	94.7	92.6	99.7	100.9	105.4	101.4	104.2	105.1	103.0	106.1	110.0	109.9	113.0	113.9	101.9	117.1	92.2	101.1	100.0	97.8			
前年同月比	101.0	94.9	91.6	92.1	98.4	101.8	102.0	109.7	112.6	112.3	119.6	128.9	136.4	162.7	200.1	204.6	237.4	207.6	206.9	198.5	184.9			

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 カナダウィニペグなたね定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

②パーム油

単位（千円/トン）

	2020年												2021年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
パーム油	79.5	71.6	55.9	57.1	52.1	60.0	65.4	70.1	75.8	75.5	88.8	91.8	93.1	102.9	112.9	108.2	124.2	97.4	110.8	120.3	120.1			
前月比	105.5	90.0	78.2	102.1	91.1	115.3	109.0	107.2	108.1	99.6	117.6	103.4	101.4	110.6	109.7	95.9	114.8	78.4	113.8	108.5	99.9			
前年同月比	134.5	115.7	96.0	100.0	98.9	115.0	129.8	129.3	131.9	135.9	134.6	121.7	117.0	143.8	201.8	189.4	238.6	162.3	169.4	171.5	158.4			

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 マレーシアパーム油定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

資料４－４ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移②

③ コーヒー

単位（千円/トン）

	2020年												2021年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
コーヒー	255.2	242.8	258.3	257.1	247.9	235.5	241.8	267.7	270.0	244.0	251.9	260.9	266.8	280.2	293.5	293.7	325.2	345.1	367.9	388.1				
前月比	90.9	95.2	106.4	99.5	96.4	95.0	102.7	110.7	100.9	90.4	103.3	103.6	102.3	105.0	104.7	100.1	110.7	106.1	106.6	105.5				
前年同月比	104.8	98.3	108.5	111.0	111.4	99.1	98.0	119.0	116.0	105.3	97.4	92.9	104.6	115.4	113.6	114.2	131.2	146.6	152.2	145.0				

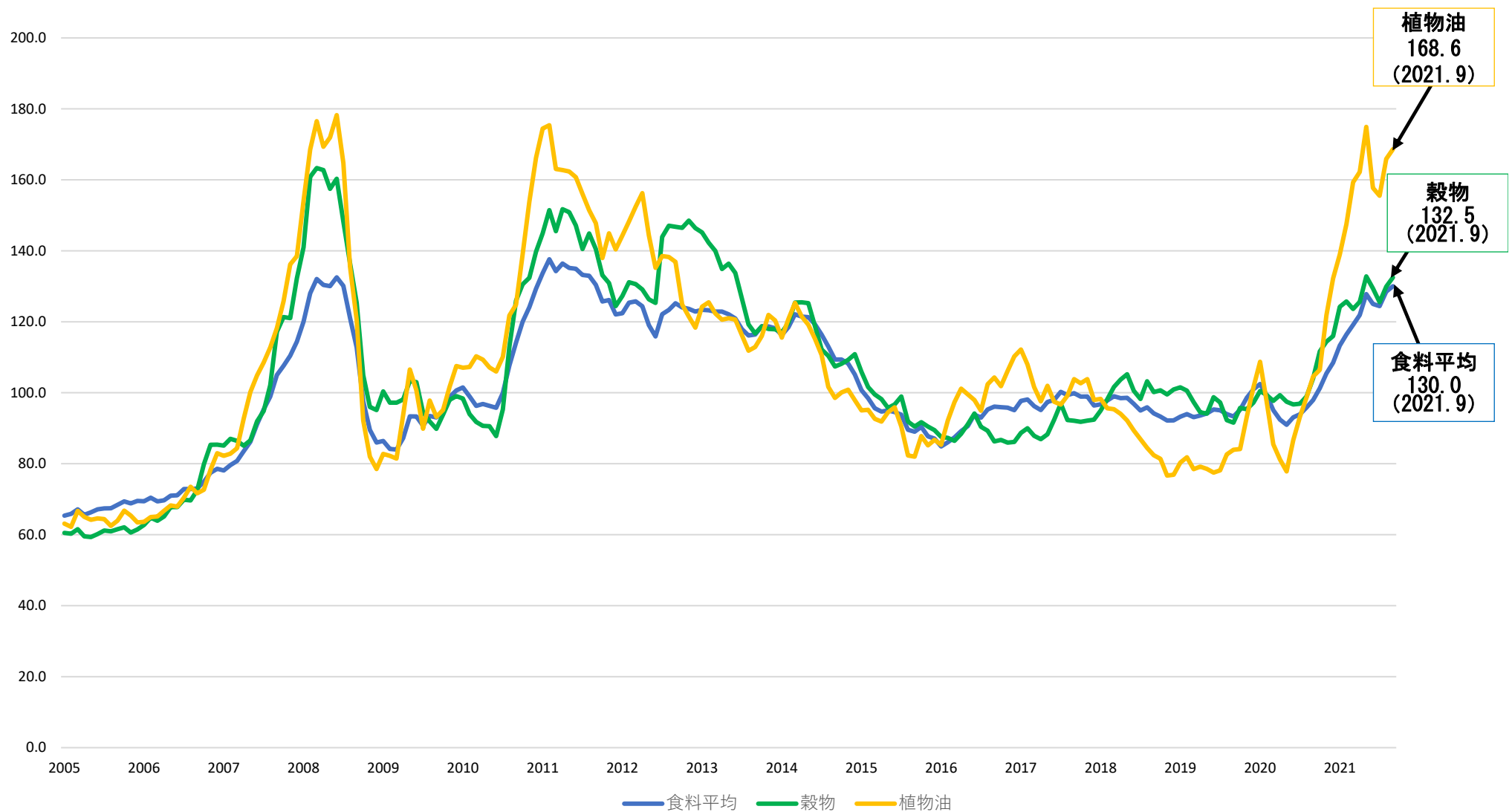
大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均から算出

2 ICO複合指標価格は、米国、ドイツ、フランスの3大市場の現物の成約価格を収集しICOの定める方法で4品種ごとの加重平均値を算出したもの。

資料5 FAO食料価格指数

(2014-16平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2021.10)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

資料6 食品小売価格の動向

○ 令和3年9月の国内の加工食品の消費者物価指数は99.3～113.9（前年同月比で－0.6%～13.8%）の範囲内。

消費者物価指数（総務省） （令和3年4月～令和3年9月）

【参考】 食品価格動向調査（農林水産省） （令和3年4月～令和3年10月）

	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2	R3						
品目	平均	平均	平均	平均	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上昇率 (前年 同月比)
食パン	99.9	99.6	100.2	101.1	100.0	99.2	98.3	99.0	99.3	99.4	99.3	-0.4%
即席めん	96.2	95.7	95.3	98.5	100.0	101.1	99.7	99.0	100.4	100.2	99.6	0.9%
豆腐	98.1	98.6	98.8	99.1	100.0	100.9	101.0	100.8	101.0	100.8	101.6	1.5%
食用油 (キャノーラ油)	106.3	102.7	101.5	100.9	100.0	98.7	99.4	102.3	103.9	107.9	113.9	13.8%
みそ	97.1	96.9	97.4	99.1	100.0	99.9	100.0	98.6	99.5	98.9	100.0	-0.1%
マヨネーズ	103.8	102.3	100.8	100.7	100.0	99.7	100.6	100.0	108.6	110.2	111.2	10.8%
チーズ	97.7	97.3	100.9	101.3	100.0	100.3	97.9	96.5	98.7	100.6	100.6	-0.6%
バター	99.0	99.3	99.5	99.9	100.0	99.8	99.9	99.9	99.9	99.8	99.9	0.0%
生鮮食品を 除く食料	96.1	97.0	97.9	99.0	100.0	99.8	100.0	100.0	100.1	100.1	100.4	0.6%

	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2	R3								
品目	平均	平均	平均	平均	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)
食パン	99.0	97.6	97.9	101.3	100.0	98.6	98.0	98.4	97.8	97.5	98.8	98.6	-0.2%	-1.1%
即席めん	92.8	92.6	92.4	97.9	100.0	99.6	99.6	99.6	99.0	99.0	99.0	99.0	0.0%	0.0%
豆腐	102.2	100.8	100.1	100.9	100.0	98.5	99.4	100.3	100.3	101.1	105.0	100.7	-4.1%	1.7%
食用油 (キャノーラ油)	99.6	97.9	97.9	103.5	100.0	98.8	98.2	100.1	100.7	106.1	109.0	112.8	3.5%	13.7%
みそ	90.3	91.9	96.6	100.4	100.0	98.4	99.4	99.8	98.1	99.0	102.7	98.4	-4.2%	-0.8%
マヨネーズ	99.9	99.1	97.9	103.1	100.0	97.7	97.7	99.0	104.5	105.9	106.6	106.6	0.0%	7.7%
チーズ	95.5	95.2	98.6	100.9	100.0	99.1	98.6	93.1	99.5	99.1	103.0	98.6	-4.3%	-1.9%
バター	98.2	98.8	99.0	99.5	100.0	99.7	99.5	99.7	99.5	99.5	99.5	99.9	0.4%	0.0%

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

注2: 調査は原則、各都道府県10店舗で実施。平成30年9月までは週1回、同年10月以降は月1回実施。

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

注2: 調査は原則、各都道府県10店舗で実施。平成30年9月までは週1回、同年10月以降は月1回実施。

注3: 調査結果は調査期間中の平均値で算出。

注4: 令和2年4～5月、令和3年1～3月、同5～9月については、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の対象都道府県においては調査を中止。そのためそれぞれ前月の値とは接続しない。